

【イベント開催レポート】

世界に輝くトップアスリートを発掘する「J-STAR プロジェクト」

オリンピック競技4期生エントリー募集〆切目前!!

「陸上からハンドボールに競技転向してトップを目指す高校1年生」

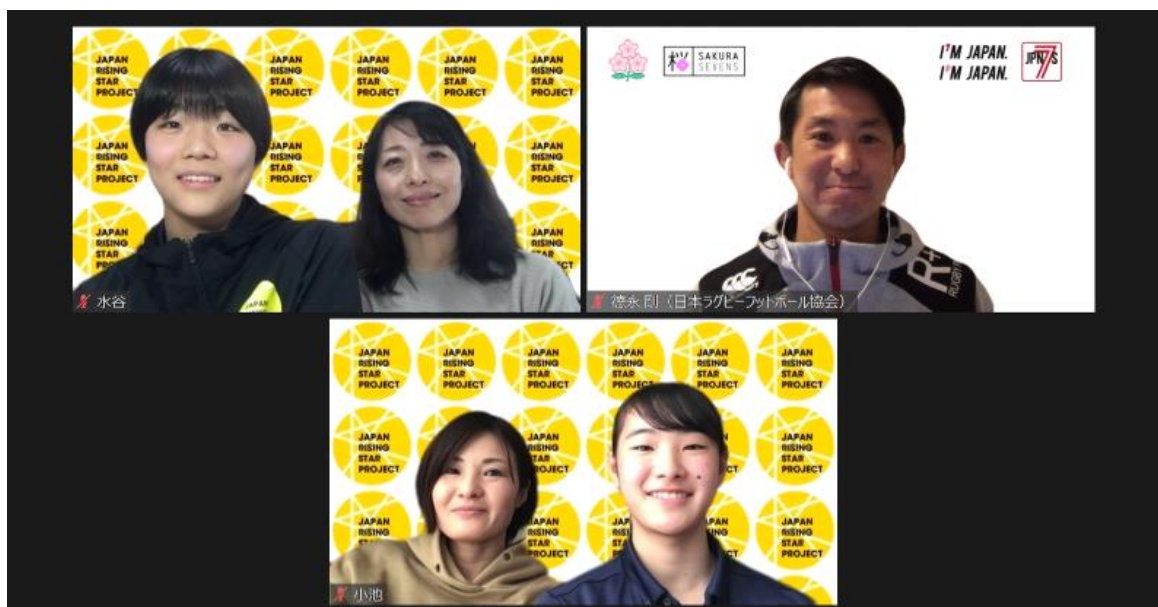
「異色の2競技に挑戦するスーパー中学2年生」

選手×保護者×コーチ陣が初登壇、熱いオンライントークセッションを展開

オリンピック競技エントリー〆切は2021年1月31日（日）まで

<https://www.j-star.info/project/>

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境づくりを行うJSPPO（正式名称：公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区／会長 伊藤雅俊）は、全国から将来性豊かなアスリートを発掘する「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STARプロジェクト）」※のオンライン説明会ならびに選手・保護者・コーチのリアルな声をお届けする初のトークセッションイベントを、2021年1月16日（土）に開催いたしました。



本イベントは、オリンピック競技4期生エントリーの期限が1月31日（日）と迫る中、まだエントリーを迷っている選手・保護者の方に理解を深めていただくことを目的に開催しました。当日は総勢15組のまだエントリーに迷っている選手・保護者が参加。今回はJ-STARプロジェクトを昨年修了した2期生で「陸上からハンドボールに競技転向してトップアスリートを目指す高校1年生」や現在参加中の3期生で「異色の2競技に挑戦するスーパー中学2年生」の親子とそのコーチ陣が初登壇し、先輩J-STAR生として興味深い実体験



やエピソードをお話しされました。

また質疑応答の時間には、本プロジェクトの詳細についてや、将来の目標やそれぞれの競技に専念しようと思ったきっかけなど、J-STAR プロジェクトに対して前向きな質問が飛び交いました。

実際に J-STAR プロジェクトに取り組んできた選手・保護者・コーチのリアルな声を通じて、スポーツで自分の可能性に挑戦することの意味、大切さを一人でも多くの子どもたちに届ける機会になりました。[J-STAR プロジェクトオリンピック競技のエントリー〆切期限は 2021 年 1 月 31 日（日）までとなります。](#)

J-STAR プロジェクト詳細はこちら <https://www.j-star.info/project/>

□登壇者プロフィール

J-STAR プロジェクト 2 期生（ハンドボール）

水谷美海選手（高校 1 年生／東京都）



中学 2 年生のときに、母親のすすめで J-STAR プロジェクトに挑戦。7 人制ラグビーに憧れるもハンドボールに適性を見いだされる。現在日本ハンドボール協会の強化プログラム選手に選出され、ハンドボール強豪高に在籍。所属した千葉県のクラブチームでは全国大会の優勝メンバーとして活躍。夢は「インターハイで優勝して日本一のポストプレーヤーになること」。

J-STAR プロジェクト 3 期生（ウエイトリフティング／7 人制ラグビー）

小池彩華選手（中学 2 年生／山梨県）



ウエイトリフティングと 7 人制ラグビーで選出され 2 競技に挑戦中。それ以外にも野球、陸上競技（100m 走、走幅跳）、スポーツ鬼ごっこ等にも挑戦。小学 3 年から入会した総合型地域スポーツクラブのコーチに J-STAR を紹介されチャレンジを即決。現在はまだ専門競技を絞り込まず 6 種類の競技に挑戦中のスーパー中学生。

徳永剛コーチ（7 人制ラグビーコーチ／所属：公益財団法人日本ラグビーフットボール協会）



〈選手歴〉

・2005～2009 年：福岡サニックスブルース所属（現 宗像サニックスブルース）

〈コーチ歴〉

・2014 年：第 2 回ユース五輪（南京）男子 7 人制ユース日本代表監督
・2016 年：アジアラグビー U20 男子セブンズシリーズ、U20 男子セブンズ日本代表ヘッドコーチ
・現在：日本ラグビーフットボール協会男女 7 人 TID（育成）ディレクター

〈開催概要〉

■期日：2021 年 1 月 16 日（土）10:30～12:00

■場所：オンライン会議ツール「Zoom」にて開催

■プログラム：10:30～11:00 J-STAR プロジェクト事業概要の説明

11:00～11:45 選手×保護者×コーチによるトークセッション

11:45～12:00 質疑応答

開催の様子は以下のとおりです。

■水谷選手・保護者コメント

J-STARに受かることがゴールではない
と思います。
人との出会いや環境の大切さを知り
ました。エントリーするか迷っている人
は是非挑戦してみてください。



■小池選手・保護者コメント



やったことがない競技でも自分の可能性
を大きく広げられるきっかけになると
思うので、このプロジェクトを通して自
分の可能性を見つけたいです。

■徳永コーチコメント

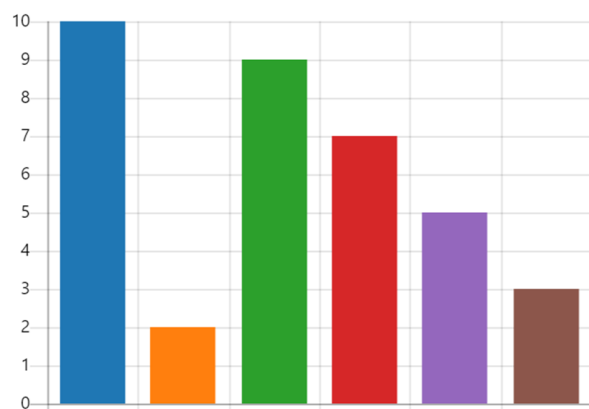
ラグビーの特性はもちろんのこと、アス
リートとしての人間力の部分を求めてい
ます。最終的には、自分が日本代表にな
りたい、トップアスリートを目指したい
という気持ちがあれば、過去のスポーツ
競技歴、受賞歴は問いません。



以下、本イベント参加者を対象に行ったアンケート結果です。

●本日の内容はいかがでしたか？

- J-STARプロジェクトへの理解が深まった
- エントリー方法について理解できた
- 4期生に選出された場合の活動内容がイメージできた
- コーチ陣、指導者への理解が深まった
- どんな選手がいるか参考になった
- 保護者の気持ちが知れてよかった



アンケート結果を見ると、J-STAR プロジェクトについての疑問点はおおむね解消され、本プロジェクトについてだけでなく、具体的な活動内容や J-STAR 生のリアルな声を聞き、より理解が深まるイベントになりました。

自由記述欄の「J-STAR 生の話で印象に残っていること」では、「J-STAR 生が本プロジェクトを通してスキルのみならず人間的に成長した点」という回答が多く挙げられました。トップコーチから選手の自主性・自立性促す指導を受けることで、技術面だけでなく、人間性を成長させることが、特に保護者の印象に残ったようです。

また、「コーチからの手厚い指導が受けられる話が聞けてよかった」「選手が話している姿が自信に満ち溢れ、楽しそうであった」など、実際に J-STAR プロジェクトに参加している選手の話聞くことができた本イベントならではの感想もありました。

「保護者の話で印象に残っていること」では、「子どもの意思を尊重し、応援していること」と、と参加した保護者の方からも「子どもが選んだ選択肢を応援してあげたい」と共感のコメントもありました。

「コーチのお話で印象に残っていること」では、「選手を第一に考えた寄り添い方・接し方をしていること」、「選手とのコミュニケーションを大切にしていること」などの、スキル面以外での選手との関わり方に感動された方が多く見られました。「現状だけでなく将来性を見込み、長期視点をもった指導をすること」など、指導方法やモットーについても知れる良い機会になったようです。

■「J-STAR プロジェクト」とは



世界で輝く未来のトップアスリートを発掘するプロジェクトです。2017 年 4 月より開始された第 2 期スポーツ基本計画及び 2016 年 10 月に発表した「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられました。このことから、2017 年度から、日本スポーツ協会（当時「日本体育協会」）は、日本スポーツ振興センターから委託を受け、「競技力向上事業」の一環として、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（J-STAR PROJECT）」を実施しています。スポーツ庁

をはじめとする関係 5 団体が連携し、全国規模で将来性豊かな選手の可能性を見出します。（※）対象競技は開催年度によって異なります。

◆JSP0（公益財団法人日本スポーツ協会）について

JSP0 は、1911 年 7 月に「国民スポーツの振興」と「国際競技力の向上」を目的に、大日本体育協会として創立。日本体育協会を経て、2018 年 4 月 1 日、現在の名称となりました。

JSP0 では、国民体育大会や日本スポーツマスターズなど各世代を網羅したスポーツ大会の開催、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどスポーツをする場の創出、スポーツの楽しみをサポートするスポーツ指導者の育成、最新の医・科学に根差したスポーツの推進など、誰もが自発的にスポーツを「する」「みる」「ささえる」ための幅広い事業を展開しています。また、わが国スポーツの統一組織として、国や 60 を超える競技団体、47 都道府県スポーツ・体育協会など、様々なスポーツ関連団体・組織や個人と連携しています。

WE SUPPORT JAPAN SPORT.

JSP0 OFFICIAL PARTNER



大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

LOTTE

セレスポ



日本文化出版



フェアプレイで日本を元気に ~あくしゅ、あいさつ、ありがとう~
目指せ100万人のフェアプレイ宣言！WEBで好評受付中！

<http://www.japan-sports.or.jp/fair/>

